

大豆特報

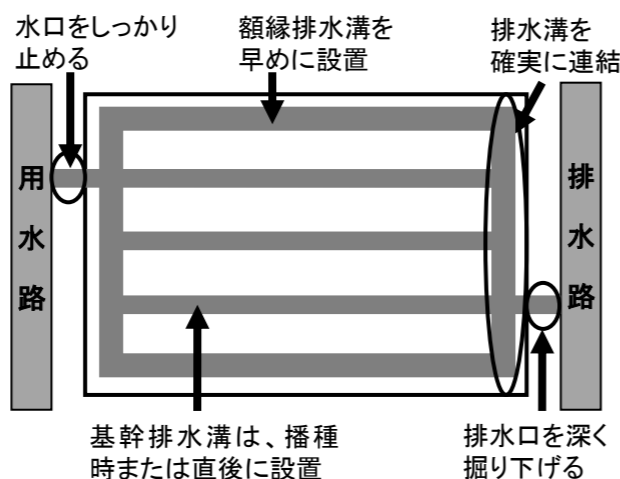
大豆栽培には、「排水対策」と「土づくり」の取組みが大変重要です。播種前にほ場の準備をしっかりと行いましょう。

また、耕起、播種などの一連の作業は、苗立ち本数の確保するため、土壌がよく乾いた状態で行い、出芽・苗立ちを促しましょう。

麦跡大豆は大麦の収穫後、直ちに播種ができるよう計画的に作業を進めましょう。

1 排水対策

- (1) 水口をしっかりと止め、水が入らないようにしましょう。また、排水口では水戸板をはずし、鍬等で深く掘り下げましょう。
- (2) 耕起前に、深さ 20cm 以上の額縁排水溝を必ず設置し、深く掘り下げた排水口と確実に連結しましょう。
- (3) 播種後も排水溝の点検・手直しを行うなど、排水対策を徹底しましょう。



2 土づくり

(1) 土壌改良資材

大豆は、土壌が酸性化すると根粒菌の着生・活性が低下しやすくなり、収量低下につながります。大豆栽培に適した pH6.0~6.5 を目標に、石灰質資材を耕起前に施用しましょう。

資材名	10a 当たり施用量
苦土石灰	100kg



(2) 有機物

地力の低下を防ぎ、収量・品質の向上を図るため、特に大豆の作付回数が多いほ場では、発酵ケイフンや堆肥を積極的に施用しましょう。

資材名	10a 当たり施用量
牛ふん堆肥	1t
発酵ケイフン	150kg

毎年種子を更新するとともに、必ず種子消毒をしましょう。

3 種子消毒

薬剤名	使用法	使用量	対象害虫	備考
クルーザーMAXX	塗沫	80ml / 種子 10kg	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病等	薬剤は青色処理後は風乾

4 基肥

土壌条件や前作に応じ、適正な量を施用しましょう。

なお、青立ちの発生が懸念されるほ場や、土づくりに発酵ケイフンを散布したほ場では、下記の施肥基準の 10~20%減肥してください。

肥料名	単作	麦跡
BB 基肥084(10-18-24)	25~30 kg/10a	40~50 kg/10a
化成肥料オール14(14-14-14)	17~22 kg/10a	30~35 kg/10a

5 播種

(1) 品種、播種時期や粒径に応じた播種量を確認して、適正な栽植本数の確保に努めましょう。

栽培方法	品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量(kg/10a) ^{注1,2)}
畦立	えんれいのそら	5月6半旬 ~ 6月上旬	14,000 ~ 16,000	5.5 ~ 6.3 kg
		6月中旬	16,000 ~ 18,000	6.3 ~ 7.0 kg
	シュウレイ	5月6半旬 ~ 6月上旬	12,000 ~ 15,000	4.8 ~ 6.0 kg
		6月中旬	15,000 ~ 18,000	6.0 ~ 7.2 kg
	オオツル	6月上旬	10,000 ~ 12,000	4.0 ~ 4.8 kg
		6月中旬	12,000 ~ 14,000	4.8 ~ 5.6 kg

栽培方法	品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量(kg/10a) ^{注1,2)}
狭畦	えんれいのそら	5月6半旬 ~ 6月上旬	19,000 ~ 21,000	7.4 ~ 8.2 kg
		6月中旬	21,000 ~ 23,000	8.2 ~ 9.0 kg
	シュウレイ	5月6半旬 ~ 6月上旬	19,000 ~ 21,000	7.6 ~ 8.4 kg
		6月中旬	21,000 ~ 23,000	8.4 ~ 9.2 kg
	オオツル	6月上旬~中旬	19,000 ~ 23,000	7.6 ~ 9.2 kg

注1) 苗立率 90%として計算

注2) 表は、大粒の百粒重の場合(えんれいのそら 35.2g、シュウレイ 36.1g、オオツル 36.1g)

- (2) 耕起作業は作土深 15cm 以上を目標に行いましょう。
碎土率 60%程度を確保するため、トラクタの作業速度、ロータリの回転数を調節しましょう。
摩耗した耕うん爪は交換しましょう。
- (3) 播種深度は 3 cm 程度を目安としましょう。浅いと水分不足に、深いと茎疫病により出芽苗立ちが悪くなります。
- (4) 播種は 0.5m/秒程度の速度(3連の播種機で 30a のほ場を 70分程度)で、急がず、確実に種子を播き、欠株を防ぎましょう。
- (5) 播種時にできた溝は、排水溝に確実につなぎ、排水を促進しましょう。

【碎土率60%での大豆の生育状況】



出芽・苗立ちが安定し、揃いが良くなるとともに、除草効果も高くなる。

6 雑草防除

除草剤は、播種後の雑草発生前に均一に表面散布しましょう。

除草剤名	使用時期	10a 当たり散布量
エコトップ P 乳剤	は種後出芽前	500ml (希釈水量: 100ℓ) 4~6kg
エコトップ P 細粒剤 F	(雑草発生前)	

注1) 散布直後に多量の降雨が予想される場合は、降雨後に散布しましょう。

注2) 隣接ほ場や作物に飛散すると薬害が生じるので、注意して散布しましょう。